令和８年度　小松市農業活性化協議会水田収益力強化ビジョン

１　地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本市農業は、水田が耕地の大部分を占めているため、水稲が水田農業の基幹となっている。そこで、美味しくて、外観の良い米づくりを目指した「うまい・きれい　小松米づくり運動」を展開し、良質米生産に向け、より一層の推進を図っている。

また、品質の向上も見込まれる直播栽培等の省力化技術に積極的に取組むとともに、減化学農薬、減化学肥料栽培や有機栽培も推進し、加えて環境保全型農業を推進するため、未利用有機資源を活用した土づくり等、資源リサイクルを基本とした持続性の高い農業生産も推進していく。

なお、計画流通を基本としながら地産地消にも積極的に取組むものとし、消費者を中心とした安全・安心志向を踏まえたトレーサビリティシステムに対応した栽培履歴記帳の取組等を実施する。

これまでも、生産調整に際し、多く見受けられた土地利用型作物である麦・大豆・そばの作付については、今後も実需者の求める品質や量に見合った生産を図りつつ、本作化を促進し、持続的に優れた産地を形成していく。

これらを実現するために必要な措置として、圃場整備の実施や客土、用排水等の整備等水田農業の振興に必要な基盤の条件整備を推進し、併せて、農業水利施設等の土地改良施設管理の省力化を図るための管理体制を強化し、施設の適切な整備を行う。

２　高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

○　適地適作の推進

北陸一の生産量を誇るトマトを「向本折・日末・今江地区」で栽培することをはじめ、ねぎは「牧・みゆき地区」、丸いもは「板津地区」、だいこんは「今江・矢田野地区」等、各地区において適した作物を奨励し、作付の拡大を図る。

○　新たな市場・需要の開拓

令和３年４月に開校されたＪＡ小松市新規就農センターにより、新規農業者（主にトマト農家）を育成し、高収益作物の作付面積の拡大を図る。また、野菜総合集出荷場（トマト・にんじん・きゅうり等）の活用により、効率的に高品質な野菜を関西圏中心に出荷する。

３　畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

○　地域の実情に応じた農地の在り方

後継者不足や農業者の高齢化が進む中、担い手に農地が集積されている。そのような背景のもと、本市においては、大規模経営体が耕作しやすい水稲作付により、現在の水田のまま維持していくことを基本とする。

○　地域の実情に応じた作物・管理方法等の選択

水稲に代わる転作作物として、麦・大豆の作付が、定着している。更なる水田の高度利用を推進し、麦・大豆の作付拡大を目指す。

○　水田の利用状況の点検方針・点検結果を踏まえた対応方針

毎年６月に行われる転作現地確認の結果をもとに、畑作物のみを生産し続けている水田については、地域の実情に合わせて、畑地化も視野に入れて検討を行うとともに、地

域の圃場条件に合った作物を選択し、ブロックローテーションによる計画的な作付を検討する。

4　作物ごとの取組方針等

（１）主食用米

土地基盤整備と農地流動化を進めながら、直播、無人ヘリコプター防除等、省力化技術を取り込んだ低コスト稲作経営を目指す。「うまい・きれい　小松米づくり運動」の推進を基本に、市場動向に対応した高品質良食味米の生産と小松米地位向上を図る。

計画流通を基本としながら、減化学農薬、減化学肥料や、地域特性を活かした特色ある生産と有機栽培等の小松ブランドを確立する。

（２）備蓄米

主食用米と同一品種で取り組めるため、中・小規模の農業者でも対応が容易であることから、優先的に作付を進める。

（３）非主食用米

ア　飼料用米

備蓄米、加工用米、その他新規需要米の需給動向を踏まえて、作付を推進する。

イ　米粉用米

全国的に需要が伸びていることから、今後、米粉製品の消費拡大と合わせて、作付を推進する。

ウ　新市場開拓用米

主食用米と同一品種で取組めることから、中・小規模の農業者でも対応が容易であるため、作付を推進する。また、需要者と複数年契約（３年以上）により作付する取組を支援する。

エ　WCS 用稲

該当なし

オ　加工用米

主食用米と同一品種で取組めることから、中・小規模の農業者でも対応が容易であるため、優先的に作付を推進する。更に、水田のフル活用を促進し、二毛作作付の振興を図る。

（４）麦、大豆、飼料作物

食料・農業・農村基本計画における戦略作物でもあることから、意欲と能力のある担い手による栽培面積の拡大を図り、更なる低コスト・省力化に努める。また、きめ細やかな営農指導により、収量向上を図る。大豆については、３００Ａ技術を推進する。更に、水田のフル活用を促進し、二毛作作付の振興を図る。

また、共同利用乾燥調製施設の利用と栽培基準の遵守により、実需に対応した品質の向上を図るとともに、更に、水田の高度利用を推進するため「大麦＋大豆」の輪作体系の確立を目指す。

（５）そば、なたね

実需者の求める品質や量に見合った生産を図りつつ、本作化を促進し、持続的に優れた産地を育成していく。更に、水田のフル活用を促進し、二毛作作付の振興を図る。

（６）地力増進作物

主食用米の需要減少に伴い、麦・大豆の作付や野菜等の高収益作物の作付が増加している。そのため、栽培体系に地力増進作物（ソルガム、えん麦、れんげ、ひまわり等）を導入することにより、土づくりの取組を行い、畑作物の単収増加を図る。

（７）高収益作物

ア　丸 い も

「加賀丸いも」ブランドとして、板津地区を中心とした作付を推進し、単収及び品質の向上に努めており、地産地消の推進による消費拡大に加え、加工品の商品開発にも努め、本市の特産品として、生産振興を図る。

イ　ね　　ぎ

本市の特産物の１つであり､既存産地（牧・みゆき地区）の外延的拡大に努める。減化学農薬､減化学肥料栽培による「環境にやさしい栽培法」を確立するとともに、予冷施設による計画出荷を進め、販路拡大による安定的な生産を図る。

ウ　にんじん

冬にんじんは、国指定産地となっており、今後は、多条播種の無間引き・無培土栽培による省力機械体系を確立・普及させることで１戸あたり１ha 以上の作付を推奨し、生産振興を図る。

エ　かぼちゃ

本市では、市場からの需要の高い品目であり、省力栽培により水稲農家や集落営農組織でも取組みやすく、市町、ＪＡ等関係団体と連携して、生産の拡大を図る。

オ　だいこん

今後も認定農業者（水稲＋露地野菜）を中心に、他作物との合理的な輪作体系により、高品質生産に努め生産振興を図る。

カ　そ の 他

その他の作物についても、地域の特色や実情に合った生産を行い、ＪＡ等の直売所で販売することにより、農業者の所得向上や不作付地の発生防止の観点から生産の拡大を図る。

５ 作物ごとの作付予定面積等

（単位:ha）

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和８年度の作付目標面積等	
		うち二毛作		うち二毛作		うち二毛作
主食用米	2791.0		2871.7		2300.0	
備蓄米	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
飼料用米	0.0	0.0	0.0	0.0	95.0	0.0
米粉用米	16.3	0.0	13.4	0.0	35.0	0.0
新市場開拓用米	45.0	0.0	45.3	0.0	85.0	0.0
WCS用稲	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
加工用米	163.9	162.1	121.6	117.2	200.0	160.0
麦	334.8	0.0	297.0	0.0	450.0	0.0
・大麦	301.4	0.0	267.9	0.0	400.0	0.0
・小麦	33.4	0.0	29.1	0.0	50.0	0.0
大豆	115.5	86.7	112.7	60.2	200.0	140.0
飼料作物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
・子実用とうもろこし	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
そば	14.4	6.4	16.6	6.5	23.0	8.0
なたね	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
地力増進作物	0.0	0.0	19.6	18.1	2.0	0.0
産地戦略作物	5.7	1.7	7.3	2.5	10.0	2.0
ねぎ	0.7	0.0	1.3	0.0	2.0	0.0
かぼちゃ	1.5	0.0	1.4	0.0	1.0	0.0
ブロッコリー	0.3	0.0	0.3	0.0	1.0	0.0
たまねぎ	0.1	0.0	0.2	0.0	1.0	0.0
知事特認作物	3.1	1.7	4.1	2.5	5.0	2.0
・野菜	3.1	1.7	4.1	2.5	4.0	2.0
・雑穀	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
・その他	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0
高収益作物	26.8	0.0	26.7	0.0	15.0	0.0
・野菜	18.0	0.0	18.0	0.0	10.0	0.0
・花き・花木	5.0	0.0	4.9	0.0	3.0	0.0
・果樹	2.0	0.0	2.1	0.0	1.5	0.0
・地域で設定した高収益作物	1.8	0.0	1.7	0.0	0.5	0.0
地域振興作物等 ※産地戦略作物を除く	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
・雑穀	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
・景観形成	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
・その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
畑地化	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

６ 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	（基幹作物）麦・大豆	土地利用型作物助成	収量(kg/10a)の増大	(R7年度) 大麦：275,小麦：261,大豆：26	(R8年度) 大麦：400,小麦：450,大豆：200
2	（基幹作物、二毛作）大豆	大豆300A技術支援助成	収量(kg/10a)の増大 大豆300A取組面積(ha)の拡大	(R7年度）52 (R7年度）111.5	(R8年度）200 (R8年度）111
3	(基幹作物) たまねぎ、にんじん、だいこん、丸いも、ねぎ、かぼちゃ、い草、ブロッコリー (二毛作) にんじん、だいこん	産地戦略作物助成	作付面積(ha)の拡大	(R7年度）4.6	(R8年度）7.5
4	(基幹作物) 野菜等、花卉（花木を含む）、果樹、その他作物 ※　別紙３対象品目一覧	高収益作物助成	作付面積(ha)の拡大	(R7年度）14.3	(R8年度）18.0
5	（基幹作物）そば	そば作付助成	作付面積(ha)の拡大	(R7年度）8.0	(R8年度）10.0
6	（基幹作物）新市場開拓用米	新市場開拓用米助成	作付面積(ha)の拡大	(R7年度）0.0	(R8年度）20.0
7	（基幹作物）新市場開拓用米	新市場開拓用米助成 の複数年契約支援	複数年契約 取組面積(ha)・数量(ｔ)	(R7年度）0ha、0t	(R8年度）5ha、20t
8	（基幹作物）地力増進作物	地力増進作物導入助成	作付面積(ha)の拡大	(R7年度）0.0	(R8年度）1.5

7　産地交付金の活用方法の概要

都道府県名：石川県

協議会名：小松市農業活性化協議会

整理番号	使途	作期等	単価（円/10a）	対象作物	取組要件等
1	土地利用型作物助成	1	20,000円/10a 上限単価(35,000円/10a)	（基幹作物）麦・大豆	麦・大豆それぞれにおいて以下の取組を行うこと 麦：消雪時追肥又は止葉展開期追肥 大豆：畝間灌水又は中耕培土
2	大豆300A技術支援助成	1	10,000円/10a	（基幹作物）大豆	大豆300A技術（狭畦栽培、畝立栽培）に取り組むこと 畝間灌水、中耕培土に取り組むこと
2	大豆300A技術支援助成（二毛作）	2	10,000円/10a	（二毛作）大豆	大豆300A技術（狭畦栽培、畝立栽培）に取り組むこと 畝間灌水又は中耕培土に取り組むこと
3	産地戦略作物助成	1	50,000円/10a	（基幹作物） たまねぎ、にんじん、だいこん、丸いも、ねぎ、かぼちゃ、い草、ブロッコリー	作付面積に応じて支援
3	産地戦略作物助成（二毛作）	2	50,000円/10a	（二毛作）にんじん、だいこん	作付面積に応じて支援
4	高収益作物助成	1	5,000円/10a	（基幹作物） 野菜等、花卉（花木を含む）、果樹、その他作物（別紙3）	作付面積に応じて支援
5	そば作付助成	1	0円 上限単価(20,000円/10a)	（基幹作物）そば	作付面積に応じて支援 出荷・販売契約を締結していること
6	新市場開拓米助成	1	0円 上限単価(20,000円/10a)	（基幹作物）新市場開拓用米	作付面積に応じて支援 加工用米等取組計画書を提出すること
7	新市場開拓米助成の複数年契約支援	1	0円 上限単価(10,000円/10a)	（基幹作物）新市場開拓用米	令和8年度から新たに結ぶ3年以上の複数年契約に基づき、作付けすること ※コメ新市場開拓等促進事業で採択された者が対象
8	地力増進作物導入助成	1	0円 上限単価(20,000円/10a)	（基幹作物）地力増進作物	2年3作体系で麦・大豆を作付けしている水稲後・麦後、又は前年度の大豆後に作付けすること

別紙3　高収益作物助成　対象品目一覧

野菜等

1	アスパラガス
2	いちご
3	いんげん
4	ウド
5	うずら豆
6	えだまめ
7	大葉
8	オクラ
9	カタウリ
10	かぶ
11	からし菜
12	カリフラワー
13	きぬさやえんどう
14	きのこ類
15	キャベツ
16	きゅうり
17	行者ニンニク
18	金糸瓜
19	金時草
20	くわい
21	ゴーヤ
22	ごぼう
23	小松菜
24	さつまいも
25	さといも
26	サニーレタス
27	さやいんげん
28	さやえんどう
29	椎茸
30	しそ
31	じねんじょ
32	春菊
33	しょうが
34	シロウリ
35	シロナ
36	すいか
37	ずいき
38	すぐり菜
39	ズッキーニ
40	せり
41	千石豆
42	ぜんまい
43	だいこん菜
44	チンゲンサイ
45	とうがらし
46	冬瓜
47	とうもろこし
48	トマト
49	ながいも
50	中島菜
51	なす
52	菜花
53	ニガウリ
54	にら
55	にんにく
56	はくさい
57	パセリ
58	パプリカ
59	ばれいしょ
60	ピーマン
61	フキ
62	吹立
63	藤豆
64	プリンスメロン
65	ほうれんそう
66	まくわうり
67	まこも
68	水菜
69	未成熟とうもろこし
70	ミニトマト
71	みょうが
72	メロン
73	モロヘイヤ
74	ヤーコン
75	やまのいも
76	ゆうがお
77	ラッキョウ
78	ラディッシュ
79	レタス
80	れんこん
81	わけぎ
82	わらび

果　樹

1	あけび
2	いちじく
3	梅
4	柿
5	キウイフルーツ
6	銀杏
7	栗
8	くわ
9	ざくろ
10	なし
11	ぶどう
12	ブルーベリー
13	プルーン
14	みかん
15	桃
16	柚
17	りんご
18	レモン
19	アロニア

その他

1	加工用青刈稲
2	い草
3	こんにゃくいも
4	たらのめ
5	ねぎ苗
6	野菜苗
7	花苗
8	(切花用)母樹
9	菖蒲

花　卉(花木を含む)

1	アカパンサス
2	アザミ
3	アスター
4	アルケミラ
5	アワ(観賞用)
6	インパチエンス
7	オーシャンブルー
8	オクロレウカ
9	オミナエシ
10	かぼちゃ(観賞用)
11	カラー
12	キキョウ
13	菊
14	キビ(観賞用)
15	グニューカリ
16	グラジオラス
17	ケイトウ
18	コギク
19	サルビア
20	スターチス
21	ステラ
22	ストック
23	スピードリオン
24	スプレー
25	センダイハギ
26	ソリダスト
27	タマスダレ
28	ダリア
29	ダンギク
30	チューリップ
31	テッセン
32	デルフィニューム
33	唐辛子(観賞用)
34	とうもろこし(観賞用)
35	トルコキキョウ
36	ハス
37	花桃
38	葉ボタン
39	ハマナス
40	ばら
41	パンジー
42	ヒオウギ
43	ビオラ
44	ヒマワリ
45	ベゴニア
46	ファレノプシス
47	ダイヤモンドスター
48	ベニバナ
49	ポインセチア
50	ホオズキ
51	マリーゴールド
52	ユリ
53	らん
54	リアトリス
55	ペチュニア
56	エアリーフローラ

(花木)

1	梅
2	梅もどき
3	エリカ
4	きりしま
5	榊
6	桜
7	サンゴミヅキ
8	ソケイ
9	椿
10	ツルウメモドキ
11	ドウダンツツジ
12	マサ木
13	柳
14	レンギョ